

資料目次

- 資料 1 英語・デジタルコミュニケーション学科・学修のイメージ
- 資料 2 3つのポリシー
- 資料 3 カリキュラムマップ
- 資料 4 時間割表
- 資料 5 履修モデル
- 資料 6 履修規程
- 資料 7 海外協定大学一覧
- 資料 8 留学生（派遣・受入）国別内訳（2018）
- 資料 9 学校法人関西外国語大学職員就業規則
- 資料 10 学校法人関西外国語大学高齢特別職員内規
- 資料 11 学校法人関西外国語大学再採用教員内規
- 資料 12 本学部・学科関連所蔵図書資料
- 資料 13 管理運営機構図
- 資料 14 学校法人関西外国語大学内部質保証システム概念図
- 資料 15 社会的・職業的自立に関する取組概念図
- 資料 16 関西外国語大学キャリアセンター委員会規程

デジタルによってグローバルに繋がった社会の中で 創造性とスキルをもってたくましく生き抜く人材を育成

身につけた知識・資質・能力を活かし、自己表現を実現

- ・ 卒業研究
- ・ Academic Project
- ・ Academic Seminar

国際社会で活躍できるための
総合的教養教育

- ・ 現代国際政治史
- ・ 文化人類学
- ・ 比較文化研究
- ・ 宗教学 等

高度で実践的な
英語運用能力

- ・ Essay Writing
- ・ Academic Reading
- ・ Communication in English
- ・ English Presentation and Discussion

英語学×デジタル分野の
文理融合型教育

- ・ Essential Digital Skills
- ・ Multimedia Technology
- ・ English for Technology Careers
- ・ プログラミング
- ・ アートサイエンス
- ・ デジタルシティズンシップ 等

全学共通の教養教育

柔軟な国際感覚を醸成する教育プログラム

VR・メタバースを取り入れた
演習施設を活用した体験型学習施設

- ・ 海外提携校への留学派遣
- ・ “Hello, world(仮称)”での体験型授業
- ・ 海外インターンシップ・海外ボランティア
- ・ “GLOBAL COMMONS 結 -YUI-”
で外国人留学生との共同生活
- ・ オンラインを活用した国際交流プログラム 等

【資料2】 3つのポリシー

外国語学部 英語・デジタルコミュニケーション学科

建学の理念

「公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応えていく実学」の教授研究を通して、「国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた人材」を育成します。

大学の教育理念・方針

- ・言語を「コミュニケーション・ツール」として位置づけ、より実践的な言語教育を行います。
- ・他国の言語・文化を修得・理解するレベルにとどまらず、日本語・日本文化の礎を踏まえ、自らの考えを自由に発信できるより高度で創造的なレベルでの言語運用能力の修得をめざします。
- ・言語教育にとどまらず、平和な国際社会の構築に貢献しうる人材として必要な「国際学」「外国学」に関する国際教育に力を注ぎ、豊かな人間性に裏付けられたコミュニケーション力を培うための教養教育を重視します。

学部(学科)の人材養成目的

(外国語学部)

高度で実践的な言語運用能力の構築を行うのみならず、諸外国・地域に関する知識、言語・文化・歴史・宗教等を異にする人々との共生を志向する国際感覚、豊かな専門知識と幅広い視野を兼ね備えた人材の育成を目的とします。

(英語・デジタルコミュニケーション学科)

高度で実践的な英語運用能力の向上を図るとともに、英語圏をはじめとする諸外国・地域の歴史や文化に関する幅広い理解、国際感覚、数理・データサイエンスの理解、ならびに豊かな専門知識を育むことにより、デジタルツールを駆使し、国際社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士(英語学)」の学位を授与します。

1. 人文科学及び社会科学の英語による文献および情報を収集・理解し、自らの意見を主体的かつ論理的に構築でき、効果的な発信が英語のできる。
2. デジタル分野において、豊かな知的探求心と独創的な発想力を養い、柔軟な国際感覚を身につけている。
3. 多文化共生に貢献できる教養と課題発見力・解決力を身につけ、率先して地域社会および国際社会に貢献・活躍できる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

本学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、専門教育科目と全学共通教育科目を体系的に編成し、授業を開講します。さらに、専門教育科目を専門必修科目と専門選択科目に区分し、基礎から発展、完成へと卒業まで順次的・体系的に学修を行えるようにします。

1. 教育内容について

- (1) 専門必修科目では、英語の4技能を伸ばし、人文科学・社会科学の英語文献を正確に理解し、英語による表現力の向上をめざします。
- (2) 専門選択科目では、英語とデジタルに関する知識とスキルの深化を目指すとともに、論理的思考力や数理的推論・データ分析力、柔軟な国際感覚、英語による情報収集力・発信力の獲得をめざします。
- (3) 全学共通教育科目では、幅広い教養を獲得し、キャリア意識の形成を促します。

2. 教育方法について

- (1) 専門必修科目においては、学修コーディネーション委員会の下、Content-Based Instruction（内容重視の教授法）を用いた英語学習を行います。
- (2) 専門必修科目では、外部試験による客観的な指標により少人数のクラス編成を行い、各自のレベルに応じた英語学習を行います。
- (3) 専門選択科目のデジタル系科目においては、デジタルツールを用いた体験型授業を実施します。
- (4) 主体的に学ぶ力を高めるため、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどの教育方法を活用したアクティブ・ラーニング型授業を実施します。
- (5) クラスアドバイザー制度により、順次的・体系的に学修が行えるように支援ならびに指導を行います。
- (6) 本学独自の多彩なプログラムによる海外提携校への留学を推奨し、留学先大学での学修を通して、幅広い知識と豊かな国際感覚を身につけます。

3. 学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。

- (1) 修得科目、留学、インターンシップ・ボランティアの体験、外部試験の成績およびクラスアドバイザーの面談などを記録するポートフォリオにより、4年間の学修成果をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。
- (2) 長期留学にかかる英語力については、TOEFLなどの外部試験の客観的な指標を設け学修成果を検証します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。

1. 求める人材像について

高等学校までの履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、

- (1)高等学校での学習・活動を通しての基礎的な知識・技能や目的意識・意欲のある人
- (2)実践的な英語力を向上させるとともに、深い専門性を英語で探究することより、国際社会で活躍できるキャリア形成をめざす強い意志を持つ人

2. 評価方法について

上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修するための基盤となる学力などについて評価します。

(1)一般選抜

ア.一般入試

個別学力検査(外国語、国語)により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜する入試については、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。

イ.大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストの得点により評価します。

(2)学校推薦型選抜

ア.公募制推薦入試においては、基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。

イ.指定校制推薦入試においては、書類選考および口頭試問(面接)を総合して評価します。

(3)特別型選抜

ア.2力年留学チャレンジ入試においては、書類選考、小論文、口頭試問(面接)を総合して評価します。

イ.特技入試においては、書類選考、小論文、口頭試問(面接)を総合して評価します。

ウ.社会人入試においては、書類選考、筆記試験(英語、小論文)、口頭試問(面接)を総合して評価します。

エ.帰国生徒入試においては、筆記試験(英語、小論文)および口頭試問(面接)を総合して評価します。

【資料3】カリキュラムマップ

外国語学部 英語・デジタルコミュニケーション学科

建学の理念		「公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応じていく実学」の教授研究を通して、「国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた人材」を育成します。												
学科の 人材養成 目的		高度で実践的な英語運用能力の向上を図るとともに、英語圏をはじめとする諸外国・地域の歴史や文化に関する幅広い理解、国際感覚、ならびに豊かな専門知識を育むことにより、国際社会で活躍できる人材の育成を目的とします。												
学位授与 の方針 (DP)		本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士（英語学）」の学位を授与します。 1. 人文科学及び社会科学の英語による文献および情報を収集・理解し、自らの意見を主体的かつ論理的に構築でき、効果的な発信が英語でできる。 2. デジタル分野において、豊かな知的探求心と独創的な発想力を養い、柔軟な国際感覚を身につけている。 3. 多文化共生に貢献できる教養と課題発見力・解決力を身につけ、率先して地域社会および国際社会に貢献・活躍できる。												
区分	科目名称	配 当 年 次 ・ 単 位 数				DP1 (知識・技能)			DP2 (思考力・判断力・表現力)			DP3 (主体性・態度)		
		1	2	3	4	外 国 語 運 用 能 力	・ 数 理 的 思 考 分 析 力	ニ デ ジ タ ル シ ル ヨ ン コ ミ ユ	思 考 力	表 現 力	知 的 探 求 心	多 文 化 共 生 力	力 課 題 発 見 ・ 解 決	協 働 力
専 門 必 修 科 目	Introduction to Academic English	2				●	●					●		
	Essay Writing I	2				●				●		●		
	Essay Writing II		2			●			●	●		●		
	Essay Writing III		2			●			●	●		●		
	Academic Reading I	4				●	●					●		
	Academic Reading II	4				●	●					●		
	Academic Reading III		4			●	●		●			●		
	Academic Reading IV		4			●	●		●			●		
	Communication in English I	2				●				●		●		
	Communication in English II	2				●				●		●		
	Communication in English III		2			●				●		●		
	Communication in English IV		2			●				●		●		
専 門 選 択 科 目	English Presentation and Discussion A			4		●	●		●	●	●	●	●	●
	English Presentation and Discussion B			4		●	●		●	●	●	●	●	●
	英語学概論	4					●		●		●	●		
	言語学研究 A	4					●		●		●	●		
	言語学研究 B	4					●		●		●	●		
	言語学研究 C	4					●		●		●	●		
	言語分析	4					●		●		●	●		
	英語文学概論	4					●		●		●	●		
	イギリス文学史	4					●		●		●	●		
	アメリカ文学史	4					●		●		●	●		
	英語文学作品研究			4			●		●		●	●		
	Business English		4				●	●		●	●	●	●	●
Hospitality English			2			●	●		●	●	●	●	●	
Essential Digital Skills		2				●	●	●	●	●	●	●		
Multimedia Technology		2				●	●	●	●	●	●	●		
English for Technology Careers			4			●	●	●	●	●	●	●		
Topics in Business and Sciences			4			●	●	●	●	●	●	●		
デジタルリテラシー	2					●	●	●	●					
データリテラシー	2					●	●	●	●					
コンピューターと社会	4					●	●	●	●	●				
メディア・スタディーズ		4				●	●	●	●	●	●			
プログラミング		4				●	●	●	●	●	●	●		
アートサイエンス			4			●	●	●	●	●	●	●		
デジタルシテイズンシップ			4			●	●	●	●	●	●	●		
デジタル社会の情報処理論			4			●	●	●	●	●	●	●		
ビジネス統計	2					●	●	●	●					
ビジネス数学	2					●	●	●	●					
経営学概論	4					●	●	●	●					
経済学概論	4					●	●	●	●					
データ分析経済学		4				●	●	●	●	●		●		
会計学		4				●	●	●	●	●		●		
現代国際政治史	4					●	●	●	●	●	●			
ホスピタリティ	4					●	●	●	●	●	●		●	
英語文化圏概論	4					●	●	●	●	●	●			
文化人類学	4					●	●	●	●	●	●			
比較文化研究			4			●	●	●	●	●	●			
民俗学			4			●	●	●	●	●	●			
宗教学			4			●	●	●	●	●	●			
海外事情研究 A～E			4			●	●	●	●	●	●	●	●	
Academic Project			4			●	●	●	●	●	●	●	●	
Academic Seminar I			2			●	●	●	●	●	●	●	●	
Academic Seminar II			2			●	●	●	●	●	●	●	●	
卒業研究 I				2		●	●	●	●	●	●	●	●	
卒業研究 II				2		●	●	●	●	●	●	●	●	

建学の理念	「公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応じていく実学」の教授研究を通して、「国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた人材」を育成します。													
学科の人材養成目的	高度で実践的な英語運用能力の向上を図るとともに、英語圏をはじめとする諸外国・地域の歴史や文化に関する幅広い理解、国際感覚、ならびに豊かな専門知識を育むことにより、国際社会で活躍できる人材の育成を目的とします。													
学位授与の方針(DP)	本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士(英語学)」の学位を授与します。 1. 人文科学及び社会科学の英語による文献および情報を収集・理解し、自らの意見を主体的かつ論理的に構築でき、効果的な発信が英語でできる。 2. デジタル分野において、豊かな知的探求心と独創的な発想力を養い、柔軟な国際感覚を身につけている。 3. 多文化共生に貢献できる教養と課題発見力・解決力を身につけ、率先して地域社会および国際社会に貢献・活躍できる。													
区分	科目名称	配当年次・単位数				DP1 (知識・技能)			DP2 (思考力・判断力・表現力)			DP3 (主体性・態度)		
						外国語運用能力	・数 理 的 思 考 分 析 力	ニ デ ジ タ ル シ ル ヨ ン コ ミ ユ	思 考 力	表 現 力	知 的 探 求 心	多 文 化 共 生 力	力 課 題 発 見 ・ 解 決	協 働 力
		1	2	3	4									
全 学 共 通 教 育 科 目	哲学			4		●			●			●		
	人権問題論			4		●			●			●		
	憲法		4			●			●			●		
	民法		4			●			●			●		
	労働関係法		4			●			●			●		
	政治学		4			●			●			●		
	グローバル・アース		4			●			●			●		
	数学		4			●			●			●		
	心理学			4		●			●			●		
	科学とくらし			4		●			●			●		
	文学			4		●			●			●		
	総合科目A			4		●			●			●		
	総合科目B			4		●			●			●		
	総合科目C			4		●			●			●		
	総合科目D			4		●			●			●		
	総合科目E			4		●			●			●		
	総合科目F	2				●			●			●		
	総合科目G	2				●			●			●		
	総合科目H	2				●			●			●		
	総合科目I	2				●			●			●		
	スポーツ健康科学			2									●	●
	スペイン語Ⅰ		2			●	●		●	●		●		
	スペイン語Ⅱ		2			●	●		●	●		●		
	中国語Ⅰ		2			●	●		●	●		●		
	中国語Ⅱ		2			●	●		●	●		●		
	中国語Ⅲ		2			●	●		●	●		●		
	フランス語Ⅰ		2			●	●		●	●		●		
	フランス語Ⅱ		2			●	●		●	●		●		
	ドイツ語Ⅰ		2			●	●		●	●		●		
	ドイツ語Ⅱ		2			●	●		●	●		●		
	イタリア語Ⅰ		2			●	●		●	●		●		
	イタリア語Ⅱ		2			●	●		●	●		●		
	ハンガールⅠ		2			●	●		●	●		●		
	ハンガールⅡ		2			●	●		●	●		●		
	ロシア語		2			●	●		●	●		●		
	ポルトガル語		2			●	●		●	●		●		
	デンマーク語		2			●	●		●	●		●		
	スウェーデン語		2			●	●		●	●		●		
	ハンガリー語		2			●	●		●	●		●		
	フィンランド語		2			●	●		●	●		●		
	アラビア語		2			●	●		●	●		●		
	ラテン語		2			●	●		●	●		●		
	総合実習A(インターンシップ)	2					●			●			●	●
総合実習B(インターンシップ)	2					●			●			●	●	
総合実習C(インターンシップ)	2					●			●			●	●	
総合実習D(インターンシップ)	2					●			●			●	●	
総合実習E(インターンシップ)	1					●			●			●	●	
総合実習F(ボランティア)	2					●			●			●	●	
総合実習G(ボランティア)	2					●			●			●	●	
総合実習H(ボランティア)	2					●			●			●	●	
総合実習I(ボランティア)	2					●			●			●	●	
総合実習J(ボランティア)	1					●			●			●	●	

【資料4】 時間割表

2026年度 英語・デジタルコミュニケーション学科 時間割表 (春学期)

Table with 12 columns: 曜 日, 時 間, 科目, 担当, 教室, 期間, 単 元, 科目, 担当, 教室, 期間, 単 元, 科目, 担当, 教室, 期間. The table is organized into 5 sections (1-5限) and includes various subjects like Academic Reading, Communication, and Business English.

各科目の実施および履修条件等

【資料5】履修モデル

グローバル企業		1年次	2年次	3年次	4年次	計
専門必修科目	Introduction to Academic English Essay Writing I Academic Reading I Academic Reading II Communication in English I Communication in English II	Essay Writing II Essay Writing III Academic Reading III Academic Reading IV Communication in English III Communication in English IV	16	16	0	40
専門選択科目	経営学概論 経済学概論 ビジネス統計 ビジネス数学 現代国際政治史 デジタルリテラシー データリテラシー	Business English データ分析/経済学	16	20	Academic Seminar I Academic Seminar II	52
全学共通教育科目	憲法 民法 スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ	リベラルアーツ留学	8	4	人権問題論 労働関係法 グローバル・アース 心理学 文学	32
計	0	12	28	20	24	124
	36	36				

スタートアップ企業

	1年次	2年次	3年次	4年次	計
専門必修科目	Introduction to Academic English Essay Writing I Academic Reading I Academic Reading II Communication in English I Communication in English II	Essay Writing II Essay Writing III Academic Reading III Academic Reading IV Communication in English III Communication in English IV	English Presentation and Discussion A English Presentation and Discussion B		40
	16	16	8	0	
専門選択科目	ビジネス統計 ビジネス数学 経済学概論 データ分析経済学 デジタルリテラシー データリテラシー	Essential Digital Skills Multimedia Technology メディア・スタディーズ	English for Technology Careers Topics in Business and Sciences アートサイエンス Academic Seminar I Academic Seminar II	プログラミング デジタルシテイズンシップ デジタル社会の情報処理論	52
	16	8	16	12	
全学共通教育科目	憲法 民法 労働関係法		人権問題論 数学 哲学	心理学 科学とくらし	32
	0	12	12	8	
計	32	36	36	20	124

メーカ

	1年次	2年次	3年次	4年次	計
専門必修科目	Introduction to Academic English Essay Writing I Academic Reading I Academic Reading II Communication in English I Communication in English II	Essay Writing II Essay Writing III Academic Reading III Academic Reading IV Communication in English III Communication in English IV	English Presentation and Discussion A English Presentation and Discussion B		40
	16	16	8	0	
専門選択科目	英語文学概論 経営学概論 経済学概論 文化人類学 デジタルリテラシー データリテラシー	現代国際政治史 比較文化研究 Business English	アートサイエンス Academic Project デジタル社会の情報処理論	English for Technology Careers メディア・スタディーズ	52
	20	12	12	8	
全学共通教育科目	憲法 中国語 I 中国語 II		人権問題論 グローバル・アース 政治学 総合実習 A・B (インターンシップ)	心理学 文学	32
	0	8	16	8	
計	36	36	36	16	124

商社

	1年次	2年次	3年次	4年次	計
専門必修科目	Introduction to Academic English Essay Writing I Academic Reading I Academic Reading II Communication in English I Communication in English II	Essay Writing II Essay Writing III Academic Reading III Academic Reading IV Communication in English III Communication in English IV	English Presentation and Discussion A English Presentation and Discussion B		40
	16	16	8	0	
専門選択科目	英語学概論 イギリス文学史 アメリカ文学史 デジタルリテラシー データリテラシー コンピューターと社会	会計学 Business English 経済学概論	英語文学作品研究 デジタルシミュレーション 経営学概論	Academic Project 卒業研究 I 卒業研究 II	52
	20	12	12	8	
全学共通教育科目	憲法 ハングル I ハングル II	民法 労働関係法 総合科目 A	人権問題論 政治学 文学		32
	0	8	12	12	
計	36	36	32	20	124

ホスピタリティー業界

	1年次	2年次	3年次	4年次	計
専門必修科目	Introduction to Academic English Essay Writing I Academic Reading I Academic Reading II Communication in English I Communication in English II	Essay Writing II Essay Writing III Academic Reading III Academic Reading IV Communication in English III Communication in English IV	English Presentation and Discussion A English Presentation and Discussion B		40
	16	16	8	0	
専門選択科目	ホスピタリティー デジタルリテラシー 英語学概論 言語学研究A 英語文学概論	英語文化概論 イギリス文学史 比較文化研究 コンピューターと社会	Hospitality English Academic Seminar I Academic Seminar II 民俗学	宗教学 卒業研究 I 卒業研究 II	52
	18	16	10	8	
全学共通教育科目		政治学	心理学 哲学 総合科目B 総合実習A・B (インターンシップ)	文学 スポーツ健康科学 総合科目F フランス語 I フランス語 II	32
	0	4	16	12	
計	34	36	34	20	124

【資料6】履修規程

外国語学部 英語・デジタルコミュニケーション学科 履修規程

第 1 章 総 則

(趣 旨)

第 1 条 この規程（以下「本規程」という）は、関西外国語大学学則（以下「学則」という）にもとづき、入学から卒業までの授業科目（以下「科目」という）の履修登録、受講、単位修得方法等に関し必要な事項を定める。

第 2 章 単位の修得

第 1 節 授業時間

(Semester制)

第 2 条 科目の開講方法は Semester制とする。

- 2 本規程における Semester制とは、春学期または秋学期の各学期をもって各科目を完結させる制度のことをいう。

(授業時間)

第 3 条 授業時間は表 1 に定める。

表 1 授業時間

第 1 限	第 2 限	第 3 限	第 4 限	第 5 限	第 6 限
9 : 00 ~ 10 : 30	10 : 45 ~ 12 : 15	13 : 15 ~ 14 : 45	15 : 00 ~ 16 : 30	16 : 40 ~ 18 : 10	18 : 20 ~ 19 : 50
休憩	15 分	60 分	15 分	10 分	10 分

第 2 節 単位制

(単位の修得)

第 4 条 当該学期に履修登録を行った科目 (以下「履修科目」という) について単位を修得することができる。

- 2 履修科目の単位を修得するためには、授業の受講および授業外学修を行い、学則第 44 条の規定にしたがって 60 点以上の成績評価を取得しなければならない。
- 3 原則として、履修科目の授業にはすべて出席しなければならない。
- 4 履修科目の単位の認定は、各学期の基準日に在学している場合に行う。各学期の基準日は次の各号に定める。
 - (1) 春学期は 8 月 31 日。
 - (2) 秋学期は 2 月末日。
- 5 授業出席に関して不正行為と判断された場合は、当該科目の成績評価は 0 点となり、単位を修得できない。
- 6 学期末試験および授業時間内に実施される中間テストないし小テスト等各種の試験において、不正行為と判断された場合は、当該科目のみならず、当該学期の全履修科目の成績評価は 0 点となり、単位を修得できない。
- 7 課題レポートや論文等の作成において、剽窃またはインターネットからのコピー・アンド・ペースト等の不正行為と判断された場合は、当該科目の成績評価は 0 点となり、単位を修得できない。

(卒業所要単位)

第 5 条 卒業に必要な総単位数は 124 単位とし、卒業要件 1 から 3 の所要単位をすべて修得しなければならない。

- 2 英語・デジタルコミュニケーション学科の卒業要件および卒業所要単位は、表 2 に定める。

表2 英語・デジタルコミュニケーション学科卒業所要単位

区分		各学年単位数				合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	
卒業要件1	専門必修科目	16	16	8		40
卒業要件2	専門選択科目	52 (指定科目の中から 3科目以上を含む)				52
卒業要件3	全学共通教育科目	32				32
卒業所要単位						124

- 3 卒業要件2は、指定科目の中から3科目以上を修得し、卒業所要単位を充足しなければならない。
- 4 卒業要件3として認められる単位には、全学共通教育科目、卒業要件2の卒業所要52単位を超えて修得した単位が含まれる。
- 5 3年次終了時までには卒業所要単位を修得した場合であっても、4年次を終了するまでは卒業できない。

(言語運用能力の到達目標)

第5条の2 卒業所要単位124単位とは別に、表3に定める言語運用能力の到達目標を達成するよう努めなければならない。

表3 学科別、学年別到達目標

年次	TOEFL	TOEIC
1年次終了時	480点 (iBT54点) 以上	560点以上
2年次終了時	500点 (iBT61点) 以上	615点以上
3年次終了時	523点 (iBT70点) 以上	650点以上
4年次終了時	550点 (iBT80点) 以上	730点以上

第3節 履修登録

(履修登録の定義)

第6条 履修登録とは、履修する科目を、自らの責任において、WEB学修支援システムを通じて登録することをいう。

(履修登録の方法)

- 第7条 履修登録は学期ごとに行い、所定の期間内に完了しなければならない。
- 2 所定の期間内に履修登録を行わなかった場合は、当該学期における登録はなかったものとし、授業への出席や各種試験受験等の事実にかかわらず、単位を修得できない。
 - 3 所定の期間内に履修登録を完了できない場合は、あらかじめ教務委員会に申し出て許可を得なければならない。
 - 4 履修登録は、授業外学修に要する学修時間を考慮するとともに、4年間の学修計画を立て、進級、卒業要件等を自ら確認したうえで慎重に行わなければならない。
 - 5 本規程に定めるもののほか、履修に関し必要な事項は、履修登録時に配付する「履修マニュアル」によって公示する。

(履修確認)

第 8 条 履修確認とは、WEB 学修支援システムにおける履修登録の最終手続として、申請登録ボタンを押すことをいう。

2 履修確認は、自らが責任をもって所定の期間内に必ず行わなければならない。

3 履修確認後は、登録した科目の変更や追加等は一切認められない。

(履修登録単位数の上限)

第 9 条 各学期に履修できる単位数は、24 単位を限度とする。ただし、次の各号に定める科目等の単位数は、各学期の履修登録単位数に算入しない。

(1) 全学共通教育科目のうち、「総合実習 A から E(インターンシップ)」および「総合実習 F から J(ボランティア)」。

(2) 集中講義科目。

(3) そのほか、教務委員会が指定した科目。

2 前項の規定にかかわらず、教務委員会が必要と判断した場合は、各学期に 24 単位を超える履修を認めることがある。

3 他学部等特別履修制度および他大学等との単位互換制度にもとづく履修科目、そのほか別に定める諸制度にもとづく履修科目の単位は、当該学期の履修登録単位数に算入する。

(最低履修科目数)

第 10 条 各学期において、卒業要件科目を 1 科目以上履修しなければならない。

(クラス指定科目)

第 11 条 クラス指定科目とは、あらかじめ履修の学期、曜日、時限等が指定されている科目のことであり、原則として指定の変更はできない。

(配当年次)

第 12 条 配当年次とは、当該科目が履修可能となる学年をいう。上位年次配当の科目は履修できないが、下位年次配当の科目は履修できる。

2 前項の規定にかかわらず、教務委員会が特に教育上有益と判断した場合は、上位年次配当の科目の履修を認めることがある。

(不開講科目等)

第 13 条 年度や学期によって開講されない科目や集中講義となる科目がある。

2 原則として、履修者が 10 名未満の科目は不開講となる。この場合、新たな科目の追加履修はできない。

(履修者数の制限)

第 14 条 科目によって、クラスサイズを調整するために履修者数を制限することがある。

2 前項にもとづき、履修登録を行う前に抽選または学内成績、言語運用能力テスト結果を基に選考を行うことがある。

3 抽選または選考が必要な科目について、これを経ないで履修登録を行った場合は、当該科目の登録は無効となる。

(単位既修得科目)

第 15 条 単位を修得した科目は、原則として再度履修することはできない。ただし、教務委員会が指示した科目は、この限りではない。

(同一時限重複履修)

第 16 条 当該学期の同一時限に重複して科目を履修することはできない。

(再履修)

第 17 条 再履修とは、不合格になった科目を再度履修登録することをいう。再履修科目の履修方法は、教務委員会が別途指示する。

(履修取消)

第 18 条 履修科目の取消は、原則として認めない。ただし、専門選択科目、全学共通教育科目について、やむを得ず取り消す必要がある場合は、指定された期間内に、指示された方法で、自らの責任において履修取消の手続を行わなければならない。

2 手続を行わずに放棄した科目の成績評価は、留学等学内の諸制度の選考基準となる学内成績の平均点算出時に算入する。

(授業料その他納付金未納者の履修登録の取扱)

第 19 条 授業料その他納付金の未納者は、当該学期の履修登録は無効となり、授業への出席や各種試験受験等の事実にかかわらず、単位を修得することができない。

第 4 節 出欠席の取扱

(学生証の携帯)

第 20 条 授業への出席に際しては、常時、学生証を携帯しなければならない。

2 学生証不携帯は、担当教員の判断により欠席として扱われることがある。

(遅刻および早退の取扱)

第 21 条 遅刻の取扱は、授業開始後 10 分までとする。10 分を超える遅刻および早退は、担当教員の判断により欠席として扱われることがある。

(授業中の途中退出)

第 22 条 授業運営の妨げになるため、原則として授業中に教室から退出してはならない。やむを得ない事情により退出する場合は、担当教員に許可を得なければならない。

2 無断で退出した場合は、担当教員の判断により欠席として扱われることがある。

(出欠席調査)

第 23 条 出欠席調査は、所定の期間内に行う。

(調査結果の取扱)

第 24 条 出欠席調査の結果は、履修可否や留学等学内の諸制度の選考における判定基準として利用される。

(専門必修科目出席不良者に対する面談指導)

第 25 条 専門必修科目において、各学期の所定の期間内における授業回数の 2 分の 1 以上を欠席した科目が 2 科目以上の者を専門必修科目出席不良者という。

2 専門必修科目出席不良者に対して、クラスアドバイザーが面談指導を行う。当該面談指導は、就学状況を改善し、4 年間で卒業できるよう促すことを目的とする。

3 専門必修科目出席不良者への通知は、本人および保護者連名のうえ、保護者宛に郵送する。

(公欠)

第 26 条 公欠は、学生細則第 36 条の規定にしたがう。公欠とは、当該授業への不参加を欠席として扱わないことをいい、当該授業における教授内容（中間テストないし小テスト等各種の試験やレポートの提出を含む）を免除するものではない。

(傷病等欠席)

第 27 条 傷病等欠席とは、感染症（学校保健安全法施行規則第 18 条に定めるものに限る）を除く傷病等で 1 か月未満欠席することをいい、診断書または病状証明書（所定様式）等を担当教員に提出しなければならない。ただし、学生細則第 36 条に定める公欠には該当しない。

(長期欠席)

第 28 条 長期欠席とは、1 か月を超えて欠席することをいい、診断書または病状証明書（所定様式）等を添えて教務部に長期欠席届を提出しなければならない。ただし、学生細則第 36 条に定める公欠には該当しない。

第 5 節 成績評価

(成績評価)

第 29 条 履修科目の成績は、学期末試験、中間テスト等の試験、レポート、授業への参加度等を総合して評価する。具体的な評価基準は、履修する科目の担当教員より授業計画書(コース・シラバス)にて公示する。

- 2 学期末試験、授業時間内試験、追試験、卒業判定不合格者試験等の取扱は、「外国語学部試験規程」に定める。

(成績発表)

第 30 条 成績は学期ごとに通知する。成績の発表は点数表記とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする。

- 2 通知方法は、本人および保護者連名のうえ、保護者宛に郵送する。
- 3 当該年度履修科目および過年度単位修得科目を、成績通知表に表記する。

(Grade Point)

第 31 条 履修科目の成績点数に応じて、相応する Grade Point を付与する。Grade Point の付与基準は表 4 に定める。

表 4 Grade Point の付与基準

成績点数	Grade Point
100 ~ 97	4.0
96 ~ 93	
92 ~ 90	3.7
89 ~ 87	3.3
86 ~ 83	3.0
82 ~ 80	2.7
79 ~ 77	2.3
76 ~ 73	2.0
72 ~ 70	1.7
69 ~ 67	1.3
66 ~ 63	1.0
62 ~ 60	0.7
59 ~ 0	0.0

(Grade Point Average)

第 32 条 学生が学修の成果を自ら検証するための指標として、Grade Point Average (以下「GPA」という) を算出する。

- 2 GPA を算出するための対象科目 (以下「GPA 対象科目」という) は、原則として卒業要件単位に算入する全科目とする。ただし、単位認定科目等、成績点数の表記がない科目は除外する。
- 3 GPA の算出方法は、表 5 のとおり定める。

表 5 GPA の算出方法

$$\text{GPA} = \frac{\text{(GPA 対象科目の Grade Point} \times \text{単位数) の総和}}{\text{GPA 対象科目の単位数の総和}}$$

- 4 GPA は、当該学期に履修した科目のみを算入する「学期 GPA」と、入学後に履修したすべての科目を算入する「累積 GPA」に分ける。

(Letter Grade)

第 33 条 履修成績を英文成績証明書に表記する場合は、履修科目の成績点数に応じて、相応する Letter Grade を用いる。Letter Grade の基準は表 6 に定める。

表 6 Letter Grade の基準

成績点数	Letter Grade
100 ~ 97	A+
96 ~ 93	A
92 ~ 90	A-
89 ~ 87	B+
86 ~ 83	B
82 ~ 80	B-
79 ~ 77	C+
76 ~ 73	C
72 ~ 70	C-
69 ~ 67	D+
66 ~ 63	D
62 ~ 60	D-
59 ~ 0	F
単位認定科目	T

(成績評価の取扱)

第 34 条 成績評価は、履修可否や留学等学内の諸制度の選考における判定基準として利用される。

- 2 学内成績の平均点算出対象科目は、過年度の不合格科目も含めた卒業要件の対象となる全履修科目とする。
- 3 一旦不合格になった科目を次学期以降に再履修した場合は、当該科目の成績および前項の平均点は上書きされる。

(専門必修科目成績不良者に対する面談指導)

- 第 35 条 各学期の専門必修科目において、2 科目以上単位を修得できなかった者を専門必修科目成績不良者という。
- 2 春学期の履修科目における専門必修科目成績不良者に対して、クラスアドバイザーが面談指導を行う。当該面談指導は、就学状況を改善し、4 年間で卒業できるよう促すことを目的とする。
 - 3 専門必修科目成績不良者への通知は、本人および保護者連名のうえ、春学期成績発表時に保護者宛に郵送する。

第 6 節 進級、留年、成績不良による退学、除籍処分

(進級)

- 第 36 条 進級とは、当該学年での学修を修了し、上位学年での学修を開始することをいう。進級するためには、各学年において次の各項の進級要件を充足しなければならない。ただし、本学が派遣する 1 年以上の長期留学参加者はこの限りではない。
- 2 1 年次生が 2 年次へ進級するためには、1 年次終了までに専門必修科目「Introduction to Academic English」「Academic Reading I」「Communication in English I」の 8 単位を含めて卒業要件科目 20 単位以上を修得していなければならない。
 - 3 2 年次生が 3 年次へ進級するためには、2 年次終了までに 1 年次配当の専門必修科目 16 単位を含めて卒業要件科目 36 単位以上を修得していなければならない。
 - 4 3 年次生が 4 年次へ進級するためには、3 年次終了までに卒業要件科目 76 単位以上を修得していなければならない。

(留年)

- 第 37 条 前条に定める進級要件を充足できない者は、当該年次に留年となる。
- 2 留年者に対して、クラスアドバイザーが面談指導を行う。クラスアドバイザーは GPA 等を勘案し成業の見込がないと判断した場合は、面談時に退学勧奨を行うことができる。
 - 3 面談指導には、保護者を同伴させることがある。
 - 4 年次にかかわらず 2 回目の留年のおそれがあると判断された者は、成業の見込がないとみなされ、学則第 53 条第 3 項第 2 号の規定にもとづき退学処分とされることがある。
 - 5 同一学年次に留年が 2 回にわたる場合は、学則第 49 条第 4 号の規定にもとづき除籍する。

第 7 節 既修得単位認定の取扱

(単位認定の申請手続)

- 第 38 条 単位認定の手続は、入学時の教務オリエンテーション後、指定した期日までに教務部に申請しなければならない。
- 2 申請時に必要な書類は次の各号に定める。
 - (1) 出身大学または短期大学の既修得単位を証明する成績証明書または単位修得証明書。
 - (2) 既修得科目の講義概要。
 - (3) 本学所定の既修得単位認定申請書(教務部に置く)。

(認定対象科目)

- 第 39 条 認定対象科目は、学則第 42 条の規定にもとづき、他の大学または短期大学における既修得単位の認定にあたって、本学科目中、専門選択科目、または全学共通教育科目の中から本学が指定する科

目とする。

(認定単位数)

第 40 条 既修得単位の認定は、30 単位を超えない範囲で行う。

(認定基準)

第 41 条 単位の認定は、申請手続き時に提出された成績証明書、講義概要等により判断する。

2 次の各号のいずれかに該当する場合は、単位を認定しないことがある。

(1) 既修得科目の授業時間数および単位計算方法が本学の基準に準じたものでない場合。

(2) 成績評価が低い場合。

3 教務委員会が必要と判断した科目は、試験等を課すことがある。

第 3 章 科目の履修

第 1 節 総則

(教育課程表)

第 42 条 教育課程表は、別表 8 に定める。

2 教育課程表に表記する科目番号は、科目履修の順序や学問分野の分類等を表す。学生は、学修したい分野に関して、科目番号を勘案し、主体的かつ体系的に学修計画を立てなければならない。

(科目名称)

第 43 条 科目の末尾に表示されているローマ数字 I から IV は、科目のレベルを表す。原則として、小さい数字の科目の単位を修得しておかなければ、続く大きい数字の科目を履修できない。ただし、教務委員会が指定する特定科目および個別の許可申請により教務委員会が履修を認めた科目は、この限りではない。

2 科目の末尾に表示されているアルファベット A から J は、科目の種類を表す。アルファベットの順序にかかわらず、履修希望科目を任意に選択することができる。

(先修条件)

第 44 条 特定の科目の履修にあたっては、教務委員会が指定する科目をあらかじめ修得しておかなければならない。これを先修条件という。

(開講学期)

第 45 条 科目の開講学期は、開講年度の時間割に定める。

2 一部の科目は、通年開講や集中講義とする場合がある。

第 2 節 専門必修科目

(専門必修科目)

第 46 条 専門必修科目 (14 科目 40 単位) は、配当年次にしたがって、卒業までに必ず修得しなければならない。

2 専門必修科目の履修に替えて専門選択科目を履修させる方が望ましいと教務委員会が判断した者は、専門必修科目の一部または全部の履修を免除することがある。ただし、専門必修科目が免除になった場合は、相応する単位数を専門選択科目の履修により、第 5 条に規定する卒業所要単位を修得しなければならない。

(専門必修科目のクラス編成)

第 47 条 専門必修科目の受講クラスは、教務委員会がクラス編成テストの成績にもとづき習熟度別にクラス編成を行い、時間割を指定する。

(先修条件)

第 48 条 「Essay Writing I」は、「Introduction to Academic English」を修得しなければ履修できない。

第 3 節 専門選択科目

(専門選択科目)

第 49 条 専門選択科目は、卒業までに 52 単位以上を修得しなければならない。

2 前項の卒業所要単位のうち、指定科目の中から 3 科目以上を修得しなければならない。

(指定科目の定義)

第 50 条 指定科目とは、卒業までに一定の科目数を修得しなければならない科目のことをいう。

2 指定科目の履修に替えて他の科目を履修させる方が望ましいと教務委員会が判断した者は、指定科目の一部または全部の履修を免除することがある。ただし、指定科目が免除になった場合は、相応する単位数を専門選択科目の履修により、第 5 条に規定する卒業所要単位を修得しなければならない。

(指定科目)

第 51 条 指定科目は、「Business English」「Hospitality English」「Essential Digital Skills」「Multimedia Technology」「English for Technology Careers」「Topics in Business and Sciences」「デジタルリテラシー」「データリテラシー」「コンピューターと社会」「メディア・スタディーズ」「プログラミング」「アートサイエンス」「デジタルシティズンシップ」「デジタル社会の情報処理論」「ビジネス統計」「ビジネス数学」「データ分析経済学」の 17 科目とする。

2 前項に定める指定科目のうち、3 科目以上を卒業までに修得しなければならない。

(先修条件)

第 52 条 「言語学研究 A」「言語学研究 B」「言語学研究 C」「言語分析」は、「英語学概論」を修得しなければ履修できない。

2 「Business English」は、「経営学概論」を修得しなければ履修できない。

3 「データ分析経済学」は、「ビジネス統計」「ビジネス数学」を修得しなければ履修できない。

(「Academic Seminar」)

第 53 条 「Academic Seminar I および II」に関する履修方法は、教務委員会が別途指示する。

(「海外事情研究」)

第 54 条 「海外事情研究 A から E」は、原則として、本学が派遣する留学生の単位認定対象科目とする。

(「卒業研究」)

第 55 条 「卒業研究 I および II」は自ら設定した特定の研究テーマについて、指導教員の指導のもと、自ら研究を進める科目であり、研究の過程、成果に対して単位の認定を行う。

2 当該科目は、担当教員があらかじめ承諾し、当該教員の指導のもとで研究を進めることが適当と教務委員会が判断した場合のみ、履修を認める。

3 履修希望者は、「卒業研究テーマおよび研究計画書(所定様式)」に、あらかじめ担当教員から承諾印を受け、3 年次秋学期の授業終了日までに、教務部へ届け出なければならない。最終的な履修可否は教務委員会が判定し、4 年次の履修登録までに通知する。

4 研究の成果は、原則として「I」は 2 回の研究レポート、「II」は「I」での研究を踏まえた研究論文等の成果物によって評価する。

5 研究レポート、研究論文の様式、提出方法等に関する必要な事項は、別途配付する「卒業研究履修要領」に定める。

第 4 節 全学共通教育科目

(「総合科目」)

第 56 条 「総合科目 A から I」は、人文、社会、自然科学の分野を特定せず、担当教員が授業計画書によって講義概要を決定する。

(「総合実習」)

- 第 57 条 「総合実習 A から E (インターンシップ)」は、企業や教育現場等でのインターンシップ (就業体験) に対して単位の認定を行う。
- 2 「総合実習 A から E (インターンシップ)」の履修方法は、本学キャリアセンター、教職教育センター、国際交流部におけるインターンシップ登録者に対して教務委員会が別途指示する。
 - 3 「総合実習 F から J (ボランティア)」は、国内外でのボランティア活動に対して単位の認定を行う。
 - 4 「総合実習 F から J (ボランティア)」を履修するためには、実習開始の 1 か月前までに実習計画書 (所定様式) を教務部に提出し、事前に教務委員会の許可を得なければならない。
 - 5 実習時間数、実習報告書、実習先からの報告書等にもとづき、単位の認定を行う。単位認定の基準は次の各号に定める。
 - (1) 30 時間以上 60 時間未満の実習に対して 1 単位を認定する。
 - (2) 60 時間以上 120 時間未満の実習に対して 2 単位を認定する。
 - (3) 120 時間以上 180 時間未満の実習に対して 4 単位を認定する。
 - (4) 180 時間以上 240 時間未満の実習に対して 6 単位を認定する。
 - (5) 240 時間以上の実習に対して 8 単位を認定する。
 - 6 春期休暇中に行った実習は、次年度春学期の履修科目として単位の認定を行う。4 年次学年末の春期休暇に行った実習の単位の認定は行わない。単位認定の取扱は、本規程第 4 条第 4 項第 1 号の規定を適用する。
 - 7 夏期休暇中に行った実習は、当該年度秋学期の履修科目として単位の認定を行う。8 月卒業予定者の単位の認定は行わない。単位認定の取扱は、本規程第 4 条第 4 項第 2 号の規定を適用する。
 - 8 当該学期の履修科目として取り扱うためには、当該学期の授業終了日までに単位認定に必要な報告書等の書類を所管部署へ提出しなければならない。
 - 9 各学期間で所定の実習時間数を充足できない場合は、次学期以降に行う実習時間を加算することができる。希望者は、各学期終了までに実習継続願 (所定様式) を所管部署へ提出し、教務委員会の許可を得なければならない。この場合は、実習内容を変更しても構わない。
 - 10 その他、必要な事項は、「実習ハンドブック」に定める。

第 4 章 長期海外インターンシップ

(長期海外インターンシップの定義)

第 58 条 本章で定める長期海外インターンシップとは、原則として 3 か月以上の実習をいう。

(対象となる実習)

第 59 条 対象となる実習は、その目的、活動内容等について、教務委員会が適当と判断し、承認するものに限る。

(参加資格)

第 60 条 各学年において次の各号の条件すべてを充足する者に参加資格を与える。

- (1) 参加時に 2 年次生以上であること。
- (2) 2 年次生、3 年次生は、第 63 条に記載の単位認定対象科目のみで進級要件を充足できる者。
- (3) 4 年次生は、第 63 条に記載の単位認定対象科目のみで卒業要件を充足できる者。
- (4) そのほか、所轄の委員会が公示する募集要項の定める条件を充足する者。

(履修許可)

第 61 条 履修を希望する者は、実習開始の 1 か月前までに実習計画書(所定様式)を所轄の委員会等に提出し、教務委員会の許可を得なければならない。

- 2 本学以外の各種企業、機関、団体等が企画、実施する実習は、教務委員会が事前に本章の適用の可否を判定する。

(単位の認定)

第 62 条 実習時間数、実習報告書、実習先からの報告書等にもとづき、単位の認定を行う。単位認定の取扱は、本規程第 4 条第 4 項第 1 号および第 2 号の規定を適用する。

- 2 単位数は、実習時間 30 時間をもって 1 単位、60 時間をもって 2 単位とする。
- 3 当該学期の授業終了日までに実習を終え、単位認定に必要な所定の書類一式を教務部へ提出した場合に限り、当該学期の履修科目として単位認定の対象とする。
- 4 学休期を利用して実施する短期のインターンシップは、本規程第 79 条(「総合実習」)の規定にもとづき単位の認定を行う。

(単位認定対象科目および単位数)

第 63 条 単位認定対象科目は、表 7 に定める。認定単位数の上限は、原則として、実習期間が 6 か月未満の場合は 20 単位、6 か月以上 1 年までの場合は 30 単位とする。

表 7 長期海外インターンシップ単位認定対象科目

単位認定対象科目
海外事情研究 A～E、総合実習 A～E(インターンシップ)

第 5 章 他学部または他大学との単位互換制度

第 1 節 他学部等特別履修制度

(対象科目)

第 64 条 履修対象科目は、開講学部等が指定する科目とする。

(申込資格)

第 65 条 次の各号の条件をすべて充足する者に申込資格を与える。

- (1) 2 年次生以上の者。ただし、教務委員会が特に認めた場合は、この限りではない。
- (2) 学内成績が優秀で、出席状況が良好である者。

(履修単位数)

第 66 条 1 年間に履修できる単位数は、8 単位を上限とし、在学中に修得できる単位数は、原則として 16 単位を限度とする。

- 2 教務委員会が特に教育上有益であると判断した場合は、1 年間に 8 単位を超える履修を許可することがある。

(履修許可)

第 67 条 履修を希望する者は、別に定める「他学部等特別履修生募集要項」にしたがい申込手続を行い、許可を得なければならない。履修可否は教務委員会が判定する。

- 2 前項による履修可否は、科目を開講する当該学部等の学生の受講人数を勘案のうえ、判定を行う。
- 3 履修を許可された場合は、途中放棄や履修取消は、原則として認められない。

(履修期間)

第 68 条 他学部等特別履修生として受講できる履修期間は、履修を認められた科目の開講期間とする。

(科目の読み替え)

第 69 条 履修科目の成績は、原則として、全学共通教育科目の単位として読み替えを行う。

- 2 資格取得等を目的とした特定の科目は、開講学部等の科目および成績を修めたものとして、開講学部等の成績証明書を発行する。

(受講料)

第 70 条 他学部等特別履修にともなう登録料や授業料等は徴収しない。ただし、演習や実習に必要な実費(教材費等)は、履修生本人が負担しなければならない。

第 2 節 大阪経済大学単位互換制度

(対象科目)

第 71 条 履修対象科目は、原則として、大阪経済大学で開講される全科目とする。ただし、大阪経済大学の都合により提供されない科目がある。

(申込資格)

第 72 条 次の各号の条件をすべて充足する者に申込資格を与える。

- (1) 2 年次生以上の者。
- (2) 学内成績が優秀で、出席状況が良好である者。

(履修単位数)

- 第 73 条 1 年間に履修できる単位数は、4 単位を上限とし、在学中に修得できる単位数は、原則として 8 単位を限度とする。
- 2 教務委員会が特に教育上有益であると判断した場合は、1 年間に 4 単位を超える履修を許可することがある。

(履修許可)

- 第 74 条 履修を希望する者は、別に定める「大阪経済大学単位互換履修生出願要項」にしたがい申込手続きを行い、許可を得なければならない。履修可否は教務委員会が判定する。
- 2 履修を許可された場合は、途中放棄や履修取消は一切認められない。

(履修期間)

- 第 75 条 単位互換履修生として受講できる履修期間は、履修を認められた科目の開講期間とする。

(単位の認定)

- 第 76 条 単位の認定は、大阪経済大学からの成績評価、取得単位数の通知にもとづき、学則第 40 条第 2 項の規定により本学の科目を修得したものとして行う。
- 2 原則として、全学共通教育科目として単位の認定を行う。当該科目の成績表記は「認」とし、点数表記はしない。

(受講料)

- 第 77 条 単位互換履修にともなう登録料や授業料等は、徴収しない。ただし、演習や実習に必要な実費(教材費等)は履修生本人が負担しなければならない。

第 6 章 雑 則

(雑 則)

- 第 78 条 留学に関する単位の取扱は、「関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部留学規程」に定める。
- 第 79 条 本規程に定めるもののほか、必要事項は教務委員会がその都度指示する。

第 7 章 改 廃

(改 廃)

- 第 80 条 本規程の改廃は理事会が行う。

附 則

- 本規程は、2023 年 4 月 1 日から施行する。

別表8 教育課程表

専門必修科目	配当年次・単位数				科目番号
	1	2	3	4	
Introduction to Academic English	2				EHMS1011
Essay Writing I	2				EHMS1021
Essay Writing II	2				EHMS2021
Essay Writing III	2				EHMS2022
Academic Reading I	4				EHMS1031
Academic Reading II	4				EHMS1032
Academic Reading III	4				EHMS2031
Academic Reading IV	4				EHMS2032
Communication in English I	2				EHMS1041
Communication in English II	2				EHMS1042
Communication in English III	2				EHMS2041
Communication in English IV	2				EHMS2042
English Presentation and Discussion A			4		EHMS3051
English Presentation and Discussion B			4		EHMS3052

専門選択科目	配当年次・単位数				科目番号
	1	2	3	4	
英語学概論	4				ESLG1011
言語学研究A	4				ESLG1021
言語学研究B	4				ESLG1022
言語学研究C	4				ESLG1023
言語分析	4				ESLG1024
英語文学概論	4				ESLT1031
イギリス文学史	4				ESLT1041
アメリカ文学史	4				ESLT1051
英語文学作品研究		4			ESLT3061
Business English	4				ESBA2071
Hospitality English		2			ESBA3081
Essential Digital Skills		2			ESDS2091
Multimedia Technology		2			ESDS2101
English for Technology Careers			4		ESDS3111

専門選択科目	配当年次・単位数				科目番号
	1	2	3	4	
Topics in Business and Sciences			4		ESDS3121
デジタルリテラシー	2				ESDS1131
データリテラシー	2				ESDS1132
コンシューマーと社会	4				ESDS1141
メソッド・スタディーズ	4				ESDS2151
プロダクトマーケティング	4				ESDS3161
アートサイエンス	4				ESDS3171
デジタルインディーズインショップ	4				ESDS3181
デジタル社会の情報処理論	4				ESDS3191
ビジネス統計	2				ESDS1201
ビジネス数学	2				ESDS1202
経営学概論	4				ESBA1211
経営学概論	4				ESBC1221
データ分析経済学	4				ESDS2231
会計学	4				ESBA2241
現代国際政治史	4				ESIR1251
ホスピタリティ	4				EST01261
英語文化圏概論	4				ESH11271
文化人類学	4				ESAS1281
比較文化研究	4				ESAS2291
民俗学	4				ESAS3301
宗教学	4				ESAS3311
海外事情研究A	4				ESSC132A
海外事情研究B	4				ESSC132B
海外事情研究C	4				ESSC132C
海外事情研究D	4				ESSC132D
海外事情研究E	4				ESSC132E
Academic Project	4				ESSC3331
Academic Seminar I		2			ESSC3341
Academic Seminar II		2			ESSC3342
卒業研究 I			2		ESSC4351
卒業研究 II			2		ESSC4352

全学共通教育科目	配当年次・単位数				科目番号
	1	2	3	4	
哲学			4		GELA3191
人間問題論			4		GELA3201
憲法			4		GELA2211
民法			4		GELA2221
労働関係法			4		GELA2231
政治学			4		GELA2241
グローバル・アース			4		GELA2251
数学			4		GELA2261
心理学			4		GELA3271
科学とくらし			4		GELA3281
文学			4		GELA3291
総合科目A			4		GELA3321
総合科目B			4		GELA3322
総合科目C			4		GELA3323
総合科目D			4		GELA3324
総合科目E			4		GELA3325
総合科目F			2		GELA1321
総合科目G			2		GELA1322
総合科目H			2		GELA1323
総合科目I			2		GELA1324
スポーツ健康科学			2		GELA3301
スペイン語 I			2		GELF2031
スペイン語 II			2		GELF2032
中国語 I			2		GELF2041
中国語 II			2		GELF2042
中国語 III			2		GELF2043
フランス語 I			2		GELF2051
フランス語 II			2		GELF2052
ドイツ語 I			2		GELF2061
ドイツ語 II			2		GELF2062
イタリア語 I			2		GELF2071
イタリア語 II			2		GELF2072

全学共通教育科目	配当年次・単位数				科目番号
	1	2	3	4	
ハングル I			2		GELF2081
ハングル II			2		GELF2082
ロシア語			2		GELF2091
ポルトガル語			2		GELF2101
デンマーク語			2		GELF2111
スウェーデン語			2		GELF2121
ハンガリー語			2		GELF2131
フィンランド語			2		GELF2141
アラビア語			2		GELF2151
ラテン語			2		GELF2161
総合実習A (インターンシップ)			2		GESC1331
総合実習B (インターンシップ)			2		GESC1332
総合実習C (インターンシップ)			2		GESC1333
総合実習D (インターンシップ)			2		GESC1334
総合実習E (インターンシップ)			1		GESC1335
総合実習F (ボランティア)			2		GESC1341
総合実習G (ボランティア)			2		GESC1342
総合実習H (ボランティア)			2		GESC1343
総合実習 I (ボランティア)			2		GESC1344
総合実習 J (ボランティア)			1		GESC1345

※概要事項

- 科目の中から、3科目以上を修得しなければならぬ。
- 海外事情研究A～Eは、原則として、本学が派遣する留学生の単位認定対象科目とする。

【資料7】

協定締結校一覧

55カ国・地域 395大学

2022年4月1日 現在

No.	Country	国名	協定大学数	
01	Canada	カナダ	38	北米
02	U.S.A.	アメリカ	185	
03	Argentina	アルゼンチン	3	中南米
04	Brazil	ブラジル	1	
05	Chile	チリ	1	
06	Colombia	コロンビア	1	
07	Dominican Republic	ドミニカ共和国	1	
08	Ecuador	エクアドル	3	
09	Mexico	メキシコ	5	
10	Peru	ペルー	1	
11	Austria	オーストリア	4	ヨーロッパ
12	Belgium	ベルギー	2	
13	Bulgaria	ブルガリア	1	
14	Czech Republic	チェコ	1	
15	Denmark	デンマーク	1	
16	Estonia	エストニア	1	
17	Finland	フィンランド	5	
18	France	フランス	8	
19	Germany	ドイツ	8	
20	Hungary	ハンガリー	1	
21	Iceland	アイスランド	1	
22	Italy	イタリア	5	
23	Latvia	ラトビア	1	
24	Lithuania	リトアニア	1	
25	Malta	マルタ	1	
26	Norway	ノルウェー	3	
27	Poland	ポーランド	2	
28	Portugal	ポルトガル	1	
29	Romania	ルーマニア	1	
30	Russian	ロシア	1	
31	Spain	スペイン	11	
32	Sweden	スウェーデン	5	
33	Switzerland	スイス	1	
34	Netherlands	オランダ	6	
35	U.K.	イギリス	7	
36	Egypt	エジプト	1	アフリカ・中東
37	Israel	イスラエル	1	
38	Kenya	ケニア	1	
39	Morocco	モロッコ	1	
40	South Africa	南アフリカ	1	
41	Turkey	トルコ	2	
42	Australia	オーストラリア	19	オセアニア
43	New Zealand	ニュージーランド	5	
44	Bangladesh	バングラデシュ	1	アジア
45	Cambodia	カンボジア	1	
46	China	中華人民共和国(香港含)	18	
47	India	インド	3	
48	Indonesia	インドネシア	1	
49	Korea	韓国	12	
50	Malaysia	マレーシア	2	
51	Singapore	シンガポール	2	
52	Taiwan	台湾	2	
53	Thailand	タイ	2	
54	The Philippines	フィリピン	1	
55	Vietnam	ベトナム	1	
Total			395	

【資料8】

留学生(派遣・受入) 国別内訳(2018年度)

地域	国名	計	派遣				受入	
			1年以上		1年未満			
アジア 8カ国673人	1 中国	599	1	5	1	483	1	111
	2 香港	7	2	1			2	6
	3 韓国	42	3	1	2	25	3	16
	4 台湾	3					4	3
	5 シンガポール	16	4	3			5	13
	6 マレーシア	3					6	3
	7 タイ	2					7	2
	8 インド	1					8	1
北米 2カ国1222人	9 アメリカ	761	5	205	3	202	9	354
	10 カナダ	461	6	14	4	422	10	25
中南米 7カ国37人	11 メキシコ	19	7	2			11	17
	12 アルゼンチン	5	8	4			12	1
	13 エクアドル	3					13	3
	14 チリ	1	9	1				
	15 ブラジル	2					14	2
	16 コロンビア	5					15	5
	17 ペルー	2					16	2
欧州 (NIS諸国を含む) 21カ国203人	18 スペイン	48	10	6	5	38	17	4
	19 フランス	10					18	10
	20 ドイツ	17	11	9			19	8
	21 オーストリア	7					20	7
	22 スイス	2					21	2
	23 イギリス	10	12	2			22	8
	24 スウェーデン	13	13	6			23	7
	25 ハンガリー	2					24	2
	26 ノルウェー	7	14	4			25	3
	27 イタリア	5					26	5
	28 フィンランド	23	15	4			27	19
	29 アイスランド	2					28	2
	30 アイルランド	2	16	2				
	31 オランダ	34	17	13			29	21
	32 リトアニア	7	18	6			30	1
	33 ロシア	4					31	4
	34 エストニア	1					32	1
	35 ラトビア	1					33	1
36 ポーランド	3					34	3	
37 イスラエル	2					35	2	
38 モロッコ	3					36	3	
大洋州 2カ国338人	39 オーストラリア	223	19	33	6	174	37	16
	40 ニューージーランド	115	20	4	7	107	38	4
中東 1カ国1人	41 トルコ	1					39	1
計	41カ国・地域 2474人		20カ国・地域 325人		7カ国・地域 1451人		39カ国・地域 698人	

※ 「地域」は外務省の区分による。

学校法人関西外国語大学 職員就業規則（抜粋）

昭和45年4月1日施行
2019年度改定第4号

第1章 総 則

（職員の定義等）

第2条 この規則において職員とは、定められた手続きにより採用された教育職員、事務職員および労務職員をいう。

第3章 人 事

第4節 退職・解雇

（定 年）

第23条 職員の定年は次のとおりとし、定年退職日に当然に雇用契約が終了するものとする。

(1) 教育職員 満65歳

満年齢に達した日の属する学年の末日を定年退職日とする。

学校法人関西外国語大学 高齢特別職員内規（抜粋）

平成 27 年 4 月 1 日施行
平成 29 年度改定第 7 号

（趣 旨）

第 1 条 この内規は、本学職員の定年年齢を超えて採用する高齢特別職員に関し必要な事項を定める。

（採 用）

第 2 条 本学職員の定年年齢を超えているが、本人の有する知識、経験、スキルなどが本学の運営にとって必要と判断された者を高齢特別職員として採用することができる。

2 高齢特別職員の採用は、理事長が本学の業務運営上必要と認めた者について、理事会の審議を経て、理事長が決定する。

（契約期間）

第 3 条 高齢特別職員の契約期間は 1 年ないし 3 年とする。

2 契約期間が 1 年の場合において理事長が業務運営上特に必要があると認めたときは、当該契約を更新することができる。原則として、更新回数は 4 回を上限とする。

3 更新する場合は文書でこれを通知する。

学校法人関西外国語大学 再採用教員内規（抜粋）

昭和 53 年 4 月 1 日施行
平成 29 年度改定第 8 号

（趣 旨）

第 1 条 本学で定年年齢に達した教育職員を新たに再採用教員として任用する場合は、この内規の定めるところによる。

（任 用）

第 2 条 再採用教員の任用は、下記に該当する者のうちより、理事会の審議を経て理事長が決定する。

- (1) 大学院指導教授
- (2) 定年時に教員役職に在る者
- (3) 理事長が本学の業務運営上必要と認めた者

（任用期間）

第 3 条 再採用教員の任用期間は 1 年とする。

- (1) 理事長が本学の業務運営上特に必要があると認めたときは、本項の任用期間を更新することができる。
- (2) 更新は個人別に 1 年ごとに可否を検討し、更新する場合は文書でこれを通知する。

本学部関連の分類別蔵書数

(単位:冊)

	和書	洋書	合計	分類別比
総記	16,415	29,150	45,565	10.1%
哲学	17,272	7,317	24,589	5.4%
歴史	32,344	13,415	45,759	10.1%
社会科学	76,338	24,833	101,171	22.4%
自然科学	13,801	1,824	15,625	3.5%
工学	6,822	1,840	8,662	1.9%
産業	6,158	1,646	7,804	1.7%
芸術	14,025	4,947	18,972	4.2%
語学	35,314	37,633	72,947	16.2%
文学	47,561	52,302	99,863	22.1%
製本雑誌	2,978	7,576	10,554	2.3%
(小計)	269,028	182,483	451,511	100.0%
教員長期貸出資料	61,347	63,966	125,313	-
合計	330,375	246,449	576,824	-
構成比	57.3%	42.7%	100.0%	-

本学部関連の蔵書数 ()内は日本十進分類番号

1) 英語科目関連	12,125 冊
Introduction to Academic English	3,860
Essay Writing	139
Academic Reading	1,949
Communication in English	912
English Presentation and Discussion	432
English for Technology Careers	171
Topics in Business and Sciences	2,909
Business English	306
Hospitality English	628
Essential Digital Skills	819

2) デジタル科目関連	12,975 冊
デジタルリテラシー	52
データリテラシー	255
ビジネス数学	788
コンピューターと社会 メディア・スタディーズ	565
アートサイエンス	11,315
3) 文学他科目群関連	56,137 冊
英語学概論	10,994
言語分析	8,987
英語文学概論	11,988
現代国際政治史	10,046
経済学概論	9,992
文化人類学	1,259
比較文化研究	1,379
宗教学	1,492
合計	81,237 冊

本学部関連の所蔵雑誌タイトル

中宮 洋雑誌

◆言語学

- 1 American journal of philology
- 2 American Philological Association newsletter
- 3 American speech
- 4 Analysis
- 5 Applied linguistics
- 6 Brain and language
- 7 CLS
- 8 Cognitive linguistics
- 9 Diachronica
- 10 Discourse processes
- 11 ELT journal
- 12 English journal
- 13 English linguistics
- 14 English studies
- 15 English teaching forum
- 16 English today
- 17 Essential teacher
- 18 Folia linguistica historica
- 19 General linguistics
- 20 Hispania
- 21 Hispanic review
- 22 Interdisciplinary journal for Germanic linguistics and semiotic analysis
- 23 International journal of American linguistics
- 24 International journal of lexicography
- 25 International review of applied linguistics in language teaching
- 26 JALT journal
- 27 Japan journal of multilingualism and multiculturalism
- 28 Journal of applied linguistics
- 29 Journal of East Asian linguistics
- 30 Journal of Japanese linguistics
- 31 Journal of linguistics
- 32 Journal of memory and language
- 33 Journal of phonetics
- 34 Journal of pragmatics
- 35 Journal of semantics
- 36 Language : journal of the Linguistic Society of America
- 37 Language and literature
- 38 Language and speech
- 39 Language arts
- 40 Language in society
- 41 Language learning
- 42 Language resources and evaluation
- 43 Language teaching
- 44 Lexicographica
- 45 Lingua
- 46 Linguistic analysis
- 47 Linguistic inquiry
- 48 Linguistica Uralica
- 49 Linguistics
- 50 Linguistics abstracts
- 51 Linguistics and philosophy
- 52 Literary & linguistic computing
- 53 MLN : modern language notes
- 54 Modern philology
- 55 Namn och bygd
- 56 Natural language & linguistic theory

- 57 Natural language semantics
- 58 Neuphilologische Mitteilungen
- 59 Nordic journal of linguistics
- 60 Philological quarterly
- 61 Phonetica
- 62 Phonology
- 63 Proceedings of the West Coast Conference on Formal Linguistics
- 64 Quarterly journal of speech
- 65 Research on language and social interaction
- 66 Review of English studies. New series
- 67 Romance philology
- 68 Studia neophilologica
- 69 Studies in philology
- 70 Studies in second language acquisition
- 71 TESOL quarterly
- 72 The language teacher
- 73 The Linguistic review
- 74 The Modern language journal
- 75 Transactions of the Philological Society
- 76 Tsukuba English studies
- 77 Word
- 78 Zeitschrift für romanische Philologie

◆社会科学

- 1 American journal of international law
- 2 American sociological review
- 3 Arbor
- 4 Contemporary sociology
- 5 Foreign affairs
- 6 Foreign policy
- 7 Human relations
- 8 International affairs
- 9 International organization
- 10 International relations of the Asia-Pacific
- 11 International security
- 12 Journal of social issues
- 13 New internationalist
- 14 Rural sociology
- 15 Social forces
- 16 Social issues and policy review
- 17 Social science history
- 18 Social science Japan journal
- 19 The American journal of sociology
- 20 The British journal of sociology
- 21 World politics

◆民族学

- 1 Acta ethnographica Hungarica
- 2 American anthropologist
- 3 American ethnologist
- 4 Anthropological science
- 5 Anthropology today
- 6 Current anthropology
- 7 Ethnic and racial studies
- 8 Journal of anthropological research
- 9 Man in India
- 10 Paideuma

- 11 The Eastern anthropologist
- 12 The journal of the Royal Anthropological Institute

◆歴史

- 1 East Asia
- 2 Eighteenth century
- 3 Eighteenth-century studies
- 4 Eurasian studies yearbook
- 5 Japan echo
- 6 Journal of Southeast Asian studies
- 7 Journal of the K.R. Cama Oriental Institute
- 8 Mediaeval studies
- 9 Speculum : a journal of mediaeval studies
- 10 The American historical review
- 11 The English historical review
- 12 The Hispanic American historical review

◆古典研究

- 1 The classical quarterly. New series
- 2 The Classical review. New series
- 3 Transactions of the American Philological Association

◆地域研究

- 1 Acta Asiatica
- 2 American studies
- 3 Américas
- 4 Asian ethnology
- 5 Asian survey
- 6 Critical Asian studies
- 7 Harvard journal of Asiatic studies
- 8 Japan close-up
- 9 Journal of American folklore
- 10 Journal of the American Oriental Society
- 11 Journal of the Oriental Institute
- 12 Kateigaho (international ed.)
- 13 Kyoto journal
- 14 Latino america
- 15 Monumenta Nipponica
- 16 Positions
- 17 Review of Japanese culture and society
- 18 Suomalais- Ugrilaisen Seuran toimituksia
- 19 The Atlantic
- 20 The Journal of Asian studies
- 21 The Journal of Indo-European studies
- 22 The journal of Japanese studies
- 23 The transactions of the Asiatic Society of Japan. Ser. 4
- 24 U.S.-Japan women's journal. English supplement
- 25 にっぽん (英語版)

◆文学

- 1 American literature
- 2 Asian theatre journal
- 3 Brontë studies
- 4 Bulletin of Spanish studies
- 5 Cervantes
- 6 Chaucer review
- 7 Comparative drama
- 8 Comparative literature

- 9 ELH : a journal of english literary history
- 10 Essays in criticism
- 11 Granta
- 12 JEGP : journal of English and Germanic philology
- 13 Latin American literary review
- 14 Medium ævum
- 15 Modern fiction studies
- 16 Neophilologus
- 17 Nineteenth-century literature
- 18 Notes and queries. New series
- 19 PMLA : publications of the Modern Language Association of America
- 20 Poetics
- 21 Shakespeare quarterly
- 22 Studies in English literature
- 23 Studies in English literature 1500-1900
- 24 T · L · S, the Times literary supplement
- 25 The drama review : TDR
- 26 Theatre notebook
- 27 Theatre survey
- 28 Twentieth century literature
- 29 World literature today

◆人文科学

- 1 American quarterly
- 2 Journal of the history of ideas

◆哲学/心理学

- 1 Analysis. New series
- 2 Japanese journal of religious studies
- 3 Japanese religions
- 4 Journal of applied psychology
- 5 Journal of religion in Africa
- 6 Journal of social psychology
- 7 Philosophy east and west
- 8 The eastern buddhist. New series
- 9 The Journal of philosophy
- 10 The journal of psychology

◆経済

- 1 Business week
- 2 California management review
- 3 Economic development and cultural change
- 4 Economy, culture & history Japan spotlight bimonthly
- 5 Fortune(Asia ed.)
- 6 Harvard business review
- 7 Japan company handbook
- 8 Journal of economic literature
- 9 Journal of world business
- 10 MIT Sloan management review
- 11 The American economic review
- 12 The economic journal
- 13 The economist
- 14 The Journal of economic perspectives
- 15 Econometrica
- 16 Japanese Economic Review
- 17 Journal of Finance
- 18 Journal of Money, Credit and Banking
- 19 Journal of Political Economy

- 20 Quarterly Journal of Economics
- 21 Review of Economic Studies
- 22 Review of Economics and Statistics
- 23 Strategic finance
- 24 Journal of management accounting research
- 25 Journal of international financial management & accounting

◆自然科学

- 1 Journal of field archaeology
- 2 National geographic

◆教育

- 1 College English
- 2 Communication education
- 3 Computers & education
- 4 Cross currents
- 5 Educational perspectives
- 6 Educational technology
- 7 Harvard educational review
- 8 Journal of educational technology systems
- 9 NEA today
- 10 Profession
- 11 Theory into practice

◆総合誌

- 1 New York
- 2 Newsweek
- 3 The spectator
- 4 Time
- 5 U.S. news & world report

御殿山 洋雑誌

◆言語学

- 1 American speech
- 2 Annual review of applied linguistics
- 3 Applied linguistics
- 4 Applied psycholinguistics
- 5 Deutsch als Fremdsprache
- 6 Deutsche Sprache
- 7 English : the magazine of the English Association
- 8 Economy, culture & history Japan spotlight bimonthly
- 9 English today
- 10 Fremdsprache Deutsch
- 11 Germanistik
- 12 International journal of corpus linguistics
- 13 International journal of the sociology of language
- 14 Interpreting
- 15 Journal of second language writing
- 16 Language learning
- 17 Language testing
- 18 The Modern language journal
- 19 Modern language quarterly
- 20 Newsletter
- 21 Revue des langues romanes
- 22 Second language research
- 23 Sprache im technischen Zeitalter
- 24 Sprachtypologie und Universalienforschung : STUF
- 25 Studies in second language acquisition
- 26 TESOL quarterly
- 27 Vital speeches of the day
- 28 Zeitschrift für germanistische Linguistik

◆社会科学

- 1 Foreign affairs
- 2 International relations of the Asia-Pacific
- 3 Millennium
- 4 New Internationalist
- 5 Nikkei Asian review
- 6 Review of international studies
- 7 JICA magazine
- 8 Japan review

◆民族学

- 1 Abstracts in anthropology
- 2 Annual Review of Anthropology

◆地域研究

- 1 AJ : Canada's Environmental voice
- 2 Ebisu
- 3 German life & letters. New series : a quarterly review
- 4 JAPAN magazin
- 5 にっぽん : discovering Japan

◆文学

- 1 Contemporary literature
- 2 Deutsche Vierteljahrschrift für Literaturwissenschaft und Geistesgeschichte
- 3 ELH : a journal of english literary history

- 4 Euphorion : Zeitschrift für Literaturgeschichte
- 5 JEGP : journal of English and Germanic philology
- 6 Journal of literary semantics
- 7 Literatur und Kritik
- 8 Magazine littéraire
- 9 New literary history : a journal of theory and interpretation

◆人文学

- 1 American quarterly
- 2 Digital scholarship in the humanities : DSH
- 3 Film quarterly
- 4 Merkur : deutsche Zeitschrift für europäisches Denken
- 5 Theater heute

◆哲学/心理学

- 1 The British journal of educational psychology
- 2 Cognitive psychology
- 3 Humor : international journal of humor research
- 4 Multivariate behavioral research
- 5 Psychological bulletin

◆経済

- 1 Economy, culture & history Japan spotlight bimonthly

◆自然科学

- 1 National geographic

◆教育

- 1 The German quarterly
- 2 NEA Today

◆総合誌

- 1 Elle à table
- 2 Harper's
- 3 L'Obs : nouvelle formule
- 4 Muze
- 5 Newsweek (International, Pacific ed.)
- 6 News-week (U.S.edition)
- 7 Phosphore
- 8 Reader's digest
- 9 Time : the weekly newsmagazine
- 10 Time : the weekly newsmagazine Asia ed
- 11 The United States news, world report
- 12 The Week

中宮 和雑誌

◆教育

- 1 異文化間教育
- 2 教育委員会月報
- 3 教員養成セミナー
- 4 教職課程
- 5 月刊高校教育
- 6 社会科教育
- 7 週刊教育資料
- 8 切抜き速報・教育版
- 9 教育音楽・小学校版
- 10 受験ジャーナル
- 7 英語教育
- 8 英語語法文法研究
- 9 語用論研究
- 10 社会言語科学
- 11 新英語教育
- 12 多聴多読マガジン
- 13 通訳・翻訳ジャーナル
- 14 日本語の研究
- 15 日本語学
- 16 日本語教育
- 17 日本認知言語学会論文集[CD-ROM版]

◆経済

- 1 応用経済学研究
- 2 アジア経済
- 3 金融経済研究
- 4 証券アナリストジャーナル
- 5 地域経済総覧
- 6 日本EU学会年報
- 7 一橋ビジネスレビュー
- 8 フィナンシャル・レビュー
- 9 フォーリン・アフェアーズ・レポート
- 10 貿易と関税
- 11 企業会計
- 12 金融研究
- 13 経済セミナー
- 14 月刊金融ジャーナル
- 15 週刊東洋経済
- 16 日経ビジネス
- 17 ハーバードビジネスレビュー

◆語学

- 1 Aera English
- 2 アルク地球人ムック
- 3 英語コーパス研究
- 4 言語研究
- 5 日本語文法
- 6 ふらんす

◆産業

- 1 ていくおふ
- 2 放送研究と調査
- 3 月刊エアステージ
- 4 月刊エアライン
- 5 情報の科学と技術

◆自然科学

- 1 ナショナルジオグラフィック
- 2 Newton
- 3 科学
- 4 日経サイエンス

◆社会科学

- 1 国際人権
- 2 国際政治
- 3 国際法外交雑誌
- 4 ジュリスト
- 5 スペイン史研究
- 6 法律時報
- 7 ボランティア学研究会
- 8 外交
- 9 国際安全保障

- 10 世界法年報
- 11 判例タイムズ
- 12 判例時報
- 13 文化人類学
- 14 平和研究
- 15 法学教室
- 16 労働判例
- 17 會計
- 18 勞政時報

◆人文科学

- 1 こころの科学
- 2 統合失調症のひろば
- 3 季刊考古学
- 4 月刊考古学ジャーナル
- 5 現代思想
- 6 古代學研究
- 7 思想
- 8 地理
- 9 部落解放
- 10 理想
- 11 図書館雑誌
- 12 学校図書館
- 13 図書館の学校

◆地域研究

- 1 アメリカ研究
- 2 イベロアメリカ研究
- 3 オーラ！アミーゴス
- 4 ラテン・アメリカ時報
- 5 国際開発ジャーナル
- 6 国際人流

◆文学

- 1 英文學研究
- 2 ユリイカ
- 3 新潮
- 4 日本文学
- 5 文体論研究

- 6 藝術新潮

◆総合誌

- 1 Newsがわかる
- 2 Newsweek 日本版
- 3 Hir@gana times
- 4 ヒューマンライツ
- 5 新聞ダイジェスト
- 6 世界
- 7 中央公論
- 8 悲劇喜劇
- 9 美術手帖
- 10 文藝春秋

御殿山 和雑誌

◆教育

- 1 開発教育
- 2 教育
- 3 教員養成セミナー
- 4 教職課程
- 5 文部科学 教育通信

◆経済

- 1 (週刊) エコノミスト
- 2 経済セミナー
- 3 JCC monthly
- 4 週刊東洋経済

◆語学

- 1 中国語文法研究
- 2 第二言語としての日本語の習得研究
- 3 英語教育
- 4 現代中国語研究
- 5 日本語学
- 6 新英語教育
- 7 通訳・翻訳ジャーナル

◆産業

- 1 (月刊) エアライン
- 2 (月刊) エアステージ

◆自然科学

- 1 Newton

◆社会科学

- 1 アステイオン
- 2 (月刊) 福祉
- 3 国際貿易
- 4 国際問題

◆人文科学

- 1 現代の図書館
- 2 であい; 全同教機関誌月刊「同和教育」

- 3 異文化コミュニケーション

- 4 LRGライブラリ・リソース・ガイド

- 5 日本の参考図書; 四季版

- 6 図書館雑誌

◆地域研究

- 1 中国文化
- 2 東アジア近代史
- 3 人民中国 (日本語版)
- 4 今日中国
- 5 東方学
- 6 東洋学研究
- 7 観光文化

◆文学

- 1 中国現代文学

◆総合誌

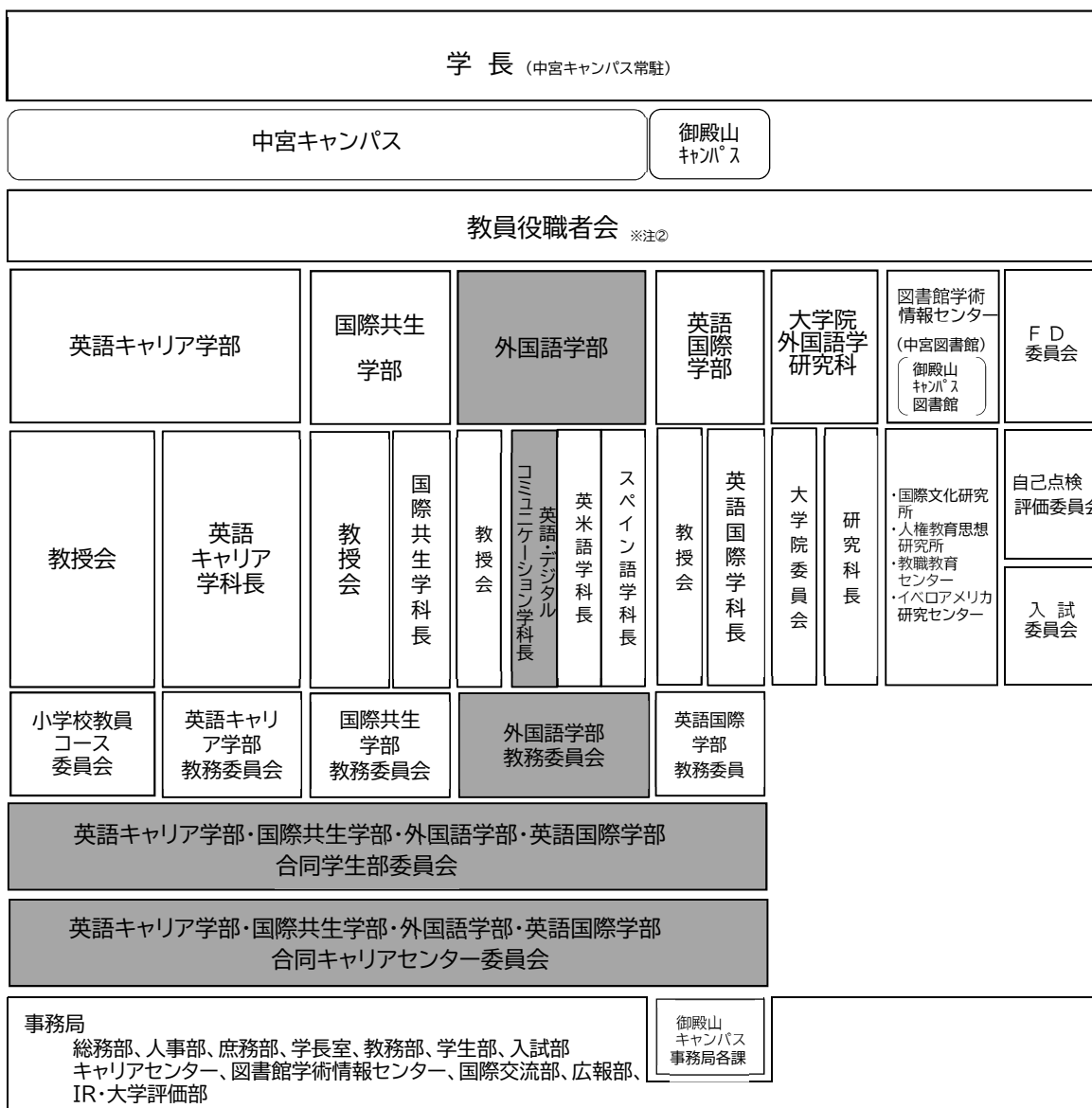
- 1 美術フォーラム21
- 2 中央公論
- 3 Newsweek(日本語版)
- 4 世界

主な電子ジャーナル一覧

2022/3/31現在

和	◆社会科学	日経BP記事検索サービス(大学版)	日経BP社
洋	◆社会科学	Business Source Premier	EBSCO
洋	◆社会科学 ◆法学 ◆人文科学	JSTOR A&S I,II,III, IV,V,VI,VII,VIII,IX	JSTOR
洋	◆医学 ◆社会科学 ◆法学 ◆人文科学	Oxford Journal Archives	Oxford University Press
洋	◆医学 ◆社会科学 ◆人文科学	Research Library	Proquest
洋	◆言語学 ◆社会科学 ◆人文科学 ◆地球科学 ◆音楽 ◆女性学 ◆地域研究	AcademicOneFile (+GeneralOneFile)	GALE

管理運営機構図

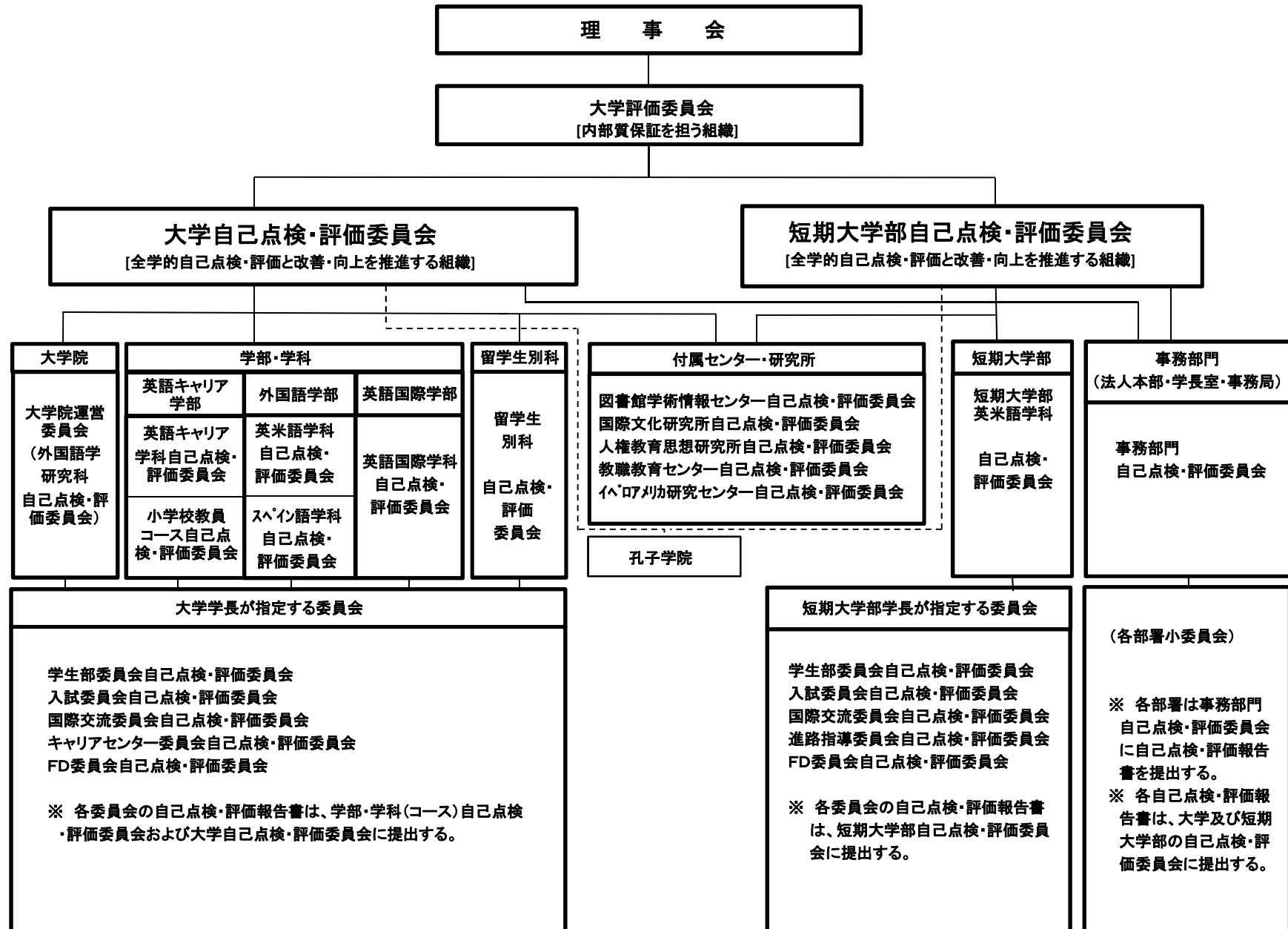


(注)① 網掛け部分が本学部に関連する組織。

② 教員役職者会は、各学部間の教学に関する連絡調整機関。

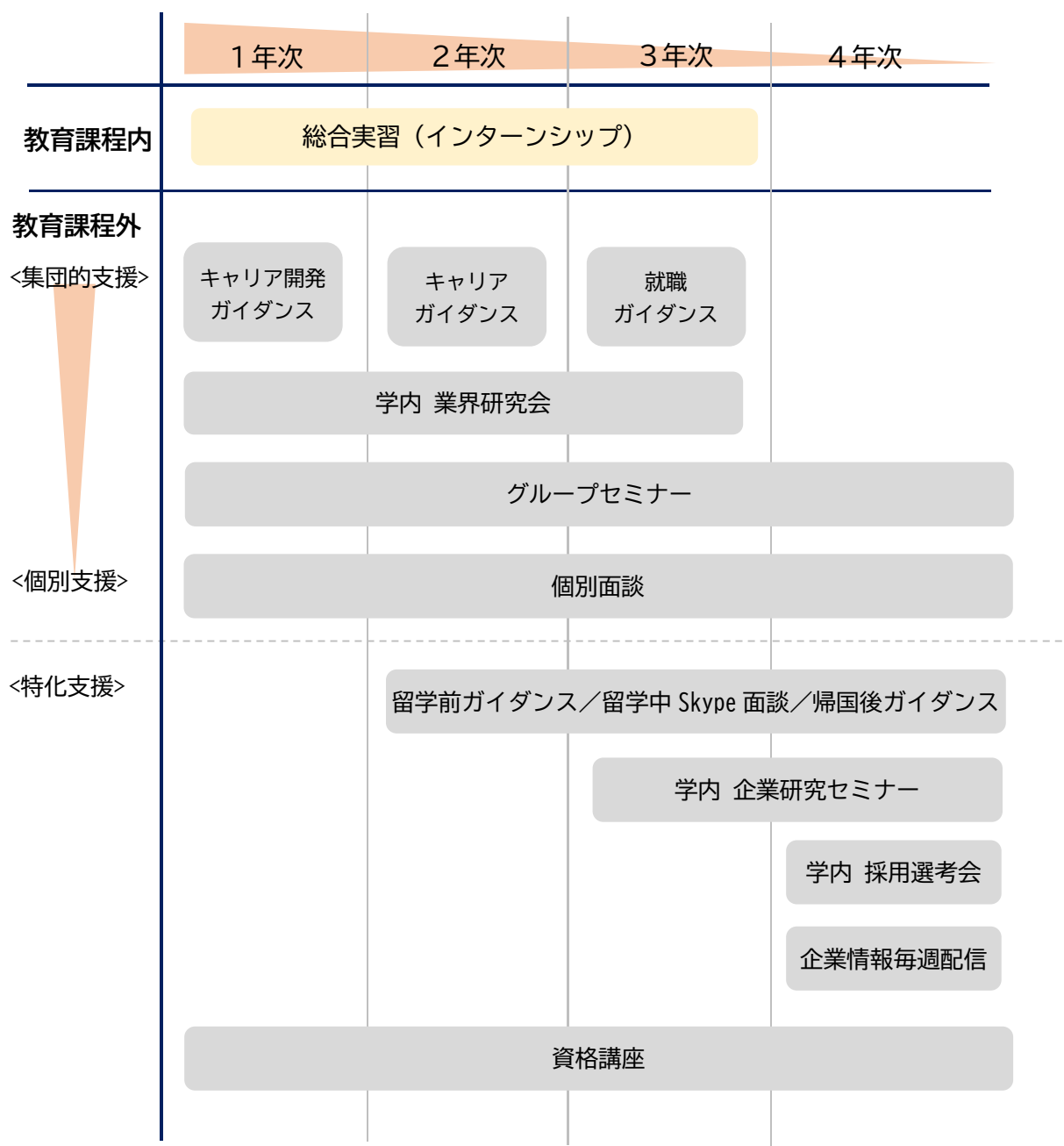
学長、学部長、学科長、大学院研究科長、教務部長、学生部長、図書館学術情報センター所長、キャリアセンター所長、国際文化研究所長、教職教育センター所長、FD 委員長等の教員役職者で構成。

学校法人関西外国語大学内部質保証システム概念図

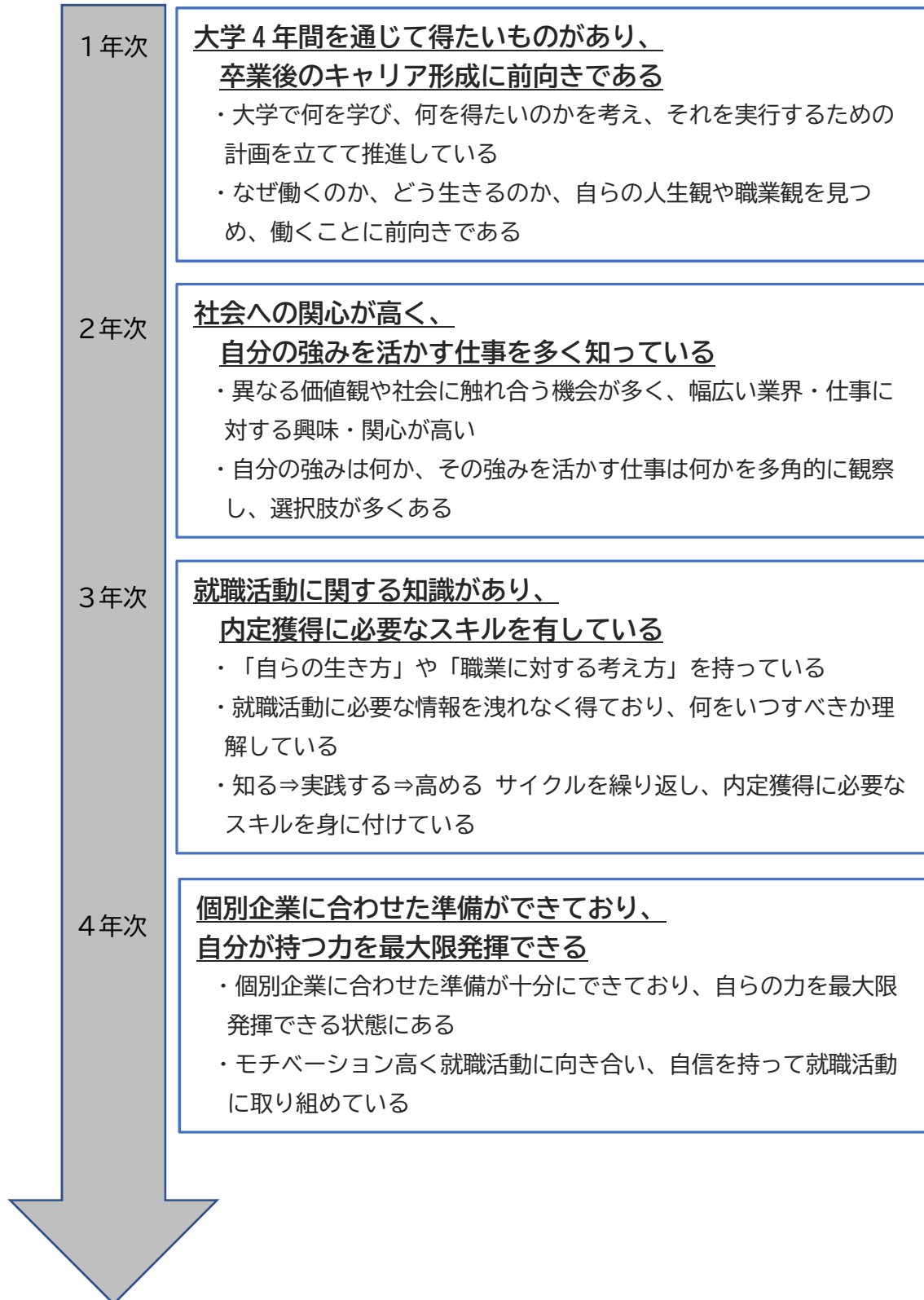


社会的・職業的自立に関する取組概念図

- 4年間を通じたキャリア支援
- 個別支援・特化支援に至るまできめ細かく支援
- 個別面談は1年生から4年生にわたり何回でも利用可
- 学生と企業とのマッチングを様々な形で展開



【各年次における到達目標】



関西外国語大学キャリアセンター委員会規程

〔昭和63年4月1日施行〕
〔平成30年度改定第14号〕

(趣旨)

第1条 この規程は、関西外国語大学学則第13条第2項の規定にもとづき、キャリアセンター委員会（以下「委員会」という）の運営に関し必要な事項を定める。

(所管事項)

第2条 委員会は次の各号に掲げる事項を所管する。

- (1) キャリア形成、就職・進学等の進路支援に関する事項
- (2) 企業等に対する広報活動に関する事項
- (3) 前2号にかかる情報の収集および分析に関する事項
- (4) 前各号のほか、学生のキャリア形成、進路支援に関する事項

(組織)

第3条 委員会は次の各号の委員をもって組織する。

- (1) キャリアセンター長
 - (2) 教育職員
 - (3) そのほか、学長が指名する職員
- 2 委員は学長が委嘱する。
 - 3 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
 - 4 委員に欠員が生じた場合の補充の委員の任期は、前項の規定にかかわらず前任者の残任期間とする。

(委員会の招集)

第4条 委員会は学長が招集する。

(委員長等)

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長はキャリアセンター長とし、議長となる。

(議事)

第6条 委員会は委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 委員長は審議または実施の結果を学長に報告する。

(事務)

第7条 委員会の事務はキャリアセンターが行う。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は学長が指示する。

- 2 大学キャリアセンター委員会と短期大学部進路指導委員会は協働することができる。
- 3 前項により合同開催する場合の議長は、各委員長の互選により選出する。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は理事会が行う。

附則

この規程は、昭和63年4月1日から施行する。

平成14年4月1日施行（平成14年3月12日改定）

平成16年4月1日施行（平成16年2月27日改定）

平成21年4月1日施行（平成21年3月5日改定）

平成23年4月1日施行（平成23年2月19日改定）

平成26年4月1日施行（平成26年1月25日改定）

平成27年4月1日施行（平成27年3月14日改定）

平成30年4月1日施行（平成30年3月13日改定）

附則

この規程の改正は、平成30年10月1日から施行する。（平成30年9月7日改定）